

【ちょっと蘊蓄；木管楽器】

オーケストラの様々な楽器が、弦楽器、打楽器、管楽器と大別され、さらに管楽器は木管楽器と金管楽器に分かれることは、多くの方が御存知のことでしょう。今回は、その違いと、その中で特に「木管楽器」を当ててみたいと思います。

さて、これらの楽器群の違いは、主に発音の方法です。オーケストラで使われる弦楽器は胴体に張られた弦を弾いて音を出します。(時に弾くこともあります) 打楽器はというと、これは名の通り、打つ・叩いて音を出します。そして管楽器は、息を使って音を出します。つまり、ヨーロッパにおいて完成した、今日「オーケストラ」と称される楽器集合体は、実に様々な発音原理によって構成されているのです。それらに個性を発揮し、時に溶け合う様は、確かに人間の作り出した大きな、深い文化・伝統と言えるでしょう。では、木管楽器と金管楽器はどう違うのでしょうか。「木管」楽器は木で、「金管」楽器は金属でできています。フルートは現在多くは銀、金などで作られていますし、サクソフォーン(サククス)は全て金属で作られています。これらは木管楽器です。(ちなみに、「サクソフォーン」は、1840~41年に、アドルフ・サククスとカール・サククスが考案し、1846年に特許を取った、比較的新しい楽器です)

「木管」と「金管」の違いは、材料の違いというより、音を出す仕組みの違いなのです。金管楽器は全体の振動を、マウスピースを通して管の中で増幅させて音を出します。一方、木管楽器は、多くは、葦の葉で作られた「リード」と呼ばれるものを振動させて音を出します。クラリネットとサククスは、1枚のリードをマウスピースに取り付けて吹きます。オーボエとファゴットは、2枚のリードを合わせたものを口に銜えて音を出します。

ところで、フルートは？ これは日本の横笛と同じで、唇が振動するのでも、リードが振動するのでもなく、何かが振動するのか。実は、管の中の空気そのものが直接振動するのです。その原理は、ビール瓶を口で吹くと同じです。ですから、オーケストラの中で、他の楽器と全く発音原理が違うのです。

管楽器もそれぞれ特徴がありますが(ホルンの音色は柔らかく、トランペットは輝かしい等)、発音原理は同じです。木管は音を出す仕組みが異なります。そこで、作曲家は、木管楽器それぞれの個性を生かしたように溶け合わせて、それぞれの楽器そのものではないサウンドを作り出したりしています。作曲家一人ひとりの楽器の扱い、音色の配合に注目するのも、オーケストラ音楽を聴く楽しみの一つですね。